

## ～ 歴史からみるきものの風景 ～

### きもの（小袖）の特質

文様を纏う衣服：画題に比肩される意味（＝物語性を有する）をもつ  
他の文化圏に類をみない特異な装飾様式：友禅染から小紋まで  
日本が、現代に通じる（不特定多数を基盤とする）モードが最初に成立した文化圏であるということ：当時最新のメディアであった出版の活用

### 江戸の服飾界

モードにおける「（最新という）価値」は積極的に創出されるもの  
版元（メディア）と町人（消費者）と工房（生産者）、三者間での緊密な情報共有  
版元はニーズを精査して、「価値」の創出を担う。

Ex. 「見立て」「尽し」「置換」etc.

裾野の広いピラミッドを形成（17世紀中期に成立）

頂点への求心力

- ・絹 憧憬 木綿・麻
- ・手描き文様等 模倣 小紋・中形・型鹿子
- ・都市（中央） 拡大 地方（古手市場）

### 現代のきものに求められること

- 1：高価格に対する不信感の払拭（金額の絶対値ではなく）  
手描き友禅とインクジェットが同じ土壌で展開 正確な情報の発信  
高級品の価値＝高価な理由の明示  
廉価品の意義＝気軽さと高級品への憧憬を内包
- 2：忘却された江戸の眼差しの復活：文様の遊び方を発信  
現状 伝統工芸展出品作と市場向けに供給される作風の相違  
現状 デパートなどでは「外さない商品」が主流 「遊ぶ要素」を自ら放棄  
17世紀初期の状況（文様が意味を持ちはじめた頃）に相当 文様の意味の周知  
現在のキモノにまつわるマナーの大半が明示以後のものであること（お端折り、四季感、重厚な帯との取り合わせ等） 無用な束縛からの解放（色・文様・着装）
- 3：利益の分配：制作者（工房）の保護  
高級品から着手 制作者と着用者間の信頼関係の構築  
金銭面に加えて個人への関心を拡大  
流通システムの見直し